

『2007年(1月～12月)JVA統計調査』について

当協会は3月13日(木)午前11時より、協会会議室において『2007年(1月～12月)JVA統計調査結果』について記者発表会を開催しました。当日の出席者は、上田武二郎統計調査委員会委員長(株)ポニーキャニオン営業本部本部長)、後藤健郎理事・事務局長、肥田幹夫管理部長、上田直子管理部次長兼広報課長。

以下に記者発表された報告の中から抜粋して2007年の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、同調査の詳細な結果は『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol.65』として冊子にまとめられ、一般の方にも有料にて頒布しております。

詳細については、広報課上田まで(03-3542-4433)、もしくは協会ホームページ「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以上

2007年(1月～12月)の実績について

1. ビデオソフトの総売上は3180億2400万円で前年比96.1%となった。2004年の3753億9300万円をピークとして下降傾向が続いているが、2006年の前年比が89.2%であったのに比べると落ち込みは緩やかになっている。ビデオソフト総売上額としては過去6番目の実績となった。
2. ビデオソフトの総売上金額のうち99.8%をDVDビデオが占め、売上金額は3172億4700万円で、前年比97.5%と前年を僅かながら割り込むこととなったが、DVDビデオの売上金額としては過去4番目の実績となった。ビデオカセットは7億7700万円でビデオソフト総売上に占める割合は0.2%となった。
3. DVDビデオの流通チャネル別売上金額では、「販売用」が65.9%、「レンタル店用」が33.6%、「その他・業務用」が0.5%となった。
「レンタル店用」は1066億2900万円で前年比104.7%、DVDビデオのレンタル店用

の売上としては過去最高の実績となった。過去の「レンタル店用」の実績(ビデオカセットの「レンタル店用」売上を加算)と比較すると2004年、2006年、1999年に続いて4番目の実績となった。

「販売用」は2089億5700万円(前年比94.4%)で、2005年をピークに前年割れが続いている。

4. DVDビデオの「販売用」売上金額の構成をジャンル別に見てみると、2006年において大きく前年を割り込んだ『洋画(ＴＶドラマを除く)』が引き続き前年割れとなり(前年比92.3%)、構成比1位は前年と同じく『日本のアニメーション(一般向け)』が占めることとなった。2位に『洋画(ＴＶドラマを除く)』(構成比20.2%)、3位に『音楽(邦楽)』(同12.3%)、4位に『邦画(ＴＶドラマを除く)』(同8.3%)となった。

『日本のアニメーション(一般向け)』が前年比107.3%と前年を上回ったほか、『海外のＴＶドラマ』が同111.8%、『日本のＴＶドラマ』が同119.1%と二桁の伸長となり好調だった。

数量においては、『日本のアニメーション(一般向け)』が前年を上回っている(前年比107.6%)他は、ほとんどのジャンルで前年割れとなっているが、『海外のＴＶドラマ』や『日本のＴＶドラマ』はBOXセットの出荷が多いため、数量の伸長に結びついていないと推察される。

5. DVDビデオの「レンタル店用」売上金額の構成をジャンル別に見ると、『洋画(ＴＶドラマを除く)』が1位(構成比29.8%)、『日本のアニメーション(一般向け)』が2位(同20.2%)、『海外のＴＶドラマ』が3位(同20.1%)、『邦画(ＴＶドラマを除く)』が4位(同14.8%)となった。『洋画(ＴＶドラマを除く)』と『日本のアニメーション(一般向け)』は前年を割り込んだが、その他の主なジャンルは大きく前年を上回り、特に『海外のＴＶドラマ』は前年比166.5%と大きく伸長した。

なお、2007年の調査より、ビデオカセットについては総売上金額、総売上数量、総発売新作数のみを調査し、流通チャネル別及びジャンル別調査は中止とした。

以 上